

北農工
新年交礼会・新春特別講演会開く

国際農機展の成功を

前回並みの20万人集客へ

北海道農業機械工業会は25日、新年交礼会と新春特別講演会をANAクラウンプラザホテル札幌で開催した。

交礼会では宮原会長が挨拶し「昨年はものづくり企業の支援やシャッ



宮原会長

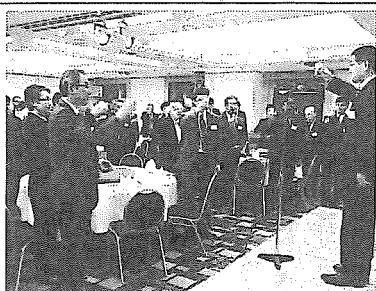
ンブランド普及育成に取り組んできた。海外市場調査や現地ネットワークづくりで一定の成果を出した。これからも北海道のものづくりに微力ながら注力したい」と前置き。「国際農機展が7月に開催される。主催者と

して事務局の一翼を担いたい」と述べた。続いて来賓から北海道

経産局地域経済部の伊藤英喜部長が「安倍首相の所信表明演説の中で生産性革命を掲げた。経産省では中小企業設備投資を後押しするべくものづく

り補助金やバックオフィスのIT導入支援補助、相続税・贈与税を猶予する事業承継税制、人手不足対応など各種支援策を

「現状国際農機展の開催に向けて鋭意準備しており、前回は20万人の集客に向けて最善な形で開催したい」と述べた。



十勝協議会の山田会長の音頭で乾杯

それから本田農機工業㈱の本田正一会長が永年継続役員の感謝状を贈呈され「昭和34年の卒業からこれまでいろいろな学ばせていただいた。

北海道農業はリーディングヒッターであり、農本主義で頑張ろう」と感謝の辞を述べた。

また閉会挨拶を北海道

農業商業協同組合の杉山宏一副会長が行い、「昨年は道農業の良い流れを農機業界も良い中で終わった。今日の講師の講演を聞いて農業機械を細かく作りこんでいかないと

思った。作業者を助け、守り、アドバイスする農機を近い将来提供できるよう頑張りたい。今年はやまが北海道と命名され150年。さまざまなイベントが開催されるが、そうした中で国際

農機展が開催される節目の年だ。業界が協力し合いつながり発展する1年にしたい」と締めた。一方の講演会では㈱イソップアグリシステムの馬渡智昭氏が「農業者から見た技術ニーズ―国産技術への期待―」と題し講演した詳細は別週。

農機新聞 平成30年1月30日



感謝状を贈呈される 本田正一氏

が会
農工年
北新

帯広展に積極対応

道命名150年で活気旺盛

北海道農業機械工業会(宮原真会長)は25日午後、札幌市内のホテルで、平成30年農業機械業界新年交礼会並びに新春特別講演会を開催した。今年は7月に帯広市で開かれる国際農機展に、出席者の多くが出席者として参画することから、その成功を期して準備を進めるほか、内外の市場に向けて「北海道のものづくり」に一層の力を傾けていくことを誓い合った。また、交礼会の席上、30年以上の永年勤続役員として本田正一氏(本田農機工業・会長)に感謝状を贈呈した。



宮原真 会長

講演会では、オホーツク地域で新たに設立された農業生産法人、㈱インツプアグリシステムの役員を務め、自らも60秒を

超える規模で畑作経営を進めている馬渡智昭氏が「農業者から見た技術ニーズ、国産技術への期待」をテーマに、精密農業をもたらず先進技術を先んじて導入してきた機械化の状況、問題点などを説

明。望まれる農業機械として堅牢性、作業機脱着の容易化、点検・整備の容易化、自動調節・自動制御などを指摘しつつ、面積拡大に伴い大面積を短時間で適切に作業できる機械が求められるが、現状機械の大型化ではなく、人目線での新たな設計手法による開発が望まれると述べ、「北海道の農機メーカーは開拓ととも

に歩んできた同士であり、地域農業の課題を解決しながら過去にとらわれずに進化を続けてほしい」と結んだ。

会員メーカー、行政、

試験研究機関、ホクレンなどの関係者約80人が出席した交礼会では、始めて祝意を表した。また、7月開催の帯広国際農機展に触れ、技術の進展が目覚ましい中、楽しみが大きいとともに、その一



会に長年貢献してきた本田正一氏に感謝状を贈った

翼を担う同会としては気を引き締めて取り組みたいと話し、爽りのある1年にしたいと今年の事業推進に意欲を示した。

次いで経産省北海道経済産業局の伊藤英喜地域経済部長、北海道経済部の新津健次産業振興課長が来賓あいさつ。それぞれの立場から同会事業に期待を寄せた後、十勝農機協議会の山田政功会長の発声で乾杯。山田氏は

地元協力のもと帯広国際農機展の開催に万全を期すとし、今年はスマート農機発売の元年になると述べつつ協力を促した。また、歓談の中、同展の準備に当たる松田清明氏が展示会の概要を説明、2月22日には出展者打ち合わせ会を実施すると案内した。

感謝状を受けた本田正一氏は、謝意を表すとともに、「北海道は農本主義でいきましょう」と檄を飛ばし、同会の変わらぬ発展に期待。会の最後にあいさつしたヤンマーア

グリジャパン北海道カンパニーの杉山宏一社長は、活気づく道内農機市場および命名150年という佳節を迎える北海道のポテンシャルを踏まえ、農機製造・供給にしっかりと対応していく旨強調し、乾杯で座を締めた。

農経しんぼう 平成30年1月29日

モノ作りに注力を

農村ニュース

北海道3団体が新年交礼会

平成30年1月29日

北海道農業機械工業会、北海道農機商業協同組合、十勝農業機械協議会は、1月25日、北海道札幌市のANAKラウン

プラザホテル札幌で「平成30年農業機械業界新年交礼会」を開催した。

はじめに主催者として北農工の宮原憲会長が挨拶。「北農工では、もの

作り企業の支援、ジャパンプブランドの育成・普及に取組み、海外の市場調査、現地でのネットワークス作り等一定の成果を上げた。また、会員企業

各企業の取組を紹介。今後も更なる発展に向け力を注いでいくとした。また、第34回国際農業機械展in帯広にも触れ「企業は130社、海外から6カ国8団体、招待

展示も5団体の参加を予定しており、期待が持てる。無人走行、GPSなど技術の進歩は進んでいく。北海道の新たなものづくり、イノベーションが大変楽しみだ」とし、今年も実りの多い一年にしていきたいと結んだ。来賓挨拶では経済産業省北海道経済産業局の伊藤英喜地域経済部長が「各企業に予算、税制を上手く活用してもらうことで、日本経済が発展し

ていく好循環を生み出したい」と述べるなど各企業共に更なる北海道の発展を目指したいとした。

挨拶の後、永年継続役員感謝状贈呈が行われ、北農工の宮原会長が本田農機工業の本田正一会長へ感謝状を授与。十勝農機協の山田政功会長の音頭で懇親会に移った。

なお、新年交礼会に先立ち行われた新春特別講演会では「農業者から見た技術ニーズ、国産技術への期待」と題し、イソツプアグリシステムの馬渡智昭氏が講演を行った。

旭川市長賞を受賞しているなど昨年の北農工や

彰で中小企業庁長官賞、